

## 千葉県立野田看護専門学校 学校関係者評価実施報告

千葉県立野田看護専門学校では、「令和3年度自己点検・自己評価結果概要」をもとに、学校関係者評価を実施したので、以下のとおり報告します。

- 1 実施年月日  
令和4年3月14日（月）～令和4年3月31日（木）書面開催による。
- 2 学校関係者評価会議出席者  
近隣教育機関、近隣保健医療施設、実習施設、有識者（非常勤講師）、看護職能団体、卒業生に評価を依頼しました。
- 3 実施内容  
自己点検評価の結果、「授業評価」及び「卒業生の就職先での評価」のとりまとめを報告し、評価及び意見をいただきました。
- 4 学校関係者評価・意見
  - 1) 自己点検・自己評価  
大項目ごとの評価は、概ね適切あるいはほぼ適切との評価をいただきました。  
主な御意見は以下のとおりです。

大項目	主 な 御 意 見 等
I 教育理念・ 教育目的・ 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の皆さんには十分に理念、目標が浸透しているようであり、学生への浸透により野田看護専門学校の学生の特性としてさらに深まることを期待します。</li> <li>・新カリキュラム導入後に期待したいと思います。理念や目標は掲示+適宜アナウンスも必要かと思われます。到達評価は技術以外にも看護師としての精神面の評価ができればよいと思います。</li> <li>・卒業時の到達状況は、OSCE(客観的臨床能力試験)を行うことで測ることができ、各学生にフィードバックできるものと思いました。</li> <li>・教員皆様の苦勞を感じた。学習に対し意欲がない学生が増えてきているとなると、生涯学び続けていく専門職としての成長にも関係するよう感じた。</li> </ul>
II 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響による変更や体制整備などが必要であったと思いますが、引き続き with コロナでの体制整備が必要だと感じます。</li> <li>・新カリキュラムに伴うシラバスの変更も次年度以降も若干の修正を行いながらより良い方向に改善をする必要があると思います。</li> <li>・コロナ禍で急に実習受け入れが不可となり、学内でのカリキュラムに切り替えていくことはやむを得ないことではあるが、学生・教員にとっては学びの限界もあったと推察する。</li> <li>・ハラスメントの問題は難しいですが、双方の意見を公平に聞いてもらえるシステムであることを祈ります。半面、世の中には理不尽が多いことを知り、その対処法を身につける必要があることも理解してほしい思いもあります。</li> </ul>
III 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師、実習対応と学生への個別指導や対応などに加え、新型コロナの影響による対応など業務負担の多さを感じます。オンライン講義や体制整備などが必要だと感じました。</li> <li>・各科目との重複は避けられないが、学生には各科目の関連性を知ることができより深い知識を得ることができると思う。</li> <li>・その時々での最善な方法を学校は選択をしている。</li> <li>・授業、実習以外の業務負担が懸念されます。授業内容の共有は良い案だと思います。学生の状況も含め教員間で情報共有できるシステムの構築が急務かと感じます。</li> <li>・まだまだ良い方向への改善すべきことがある（見えている）ということはよいことだと思う。一つずつ実行していくことで評価が向上していくと思います。</li> </ul>

IV 経営管理	<p>1名の委員から「やや不適切」との評価をいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハード面、ソフト面ともに課題にあがっていたとおり、教育、採用の体制強化と修繕計画が必要だと感じます。</li> <li>公的機関としての制約がある中での改善なので、優先順位を付けて行うしかないと思います。</li> <li>教員の入れ替わり、退職される方などにふれ、どこの職場でも同様ではあるが過酷さや、人材確保の難しさを垣間見る機会がある。待遇の改善などはいかがでしょうか。</li> <li>コロナ禍でいつもどおりにはいかないことが多いかと思えます。まず、メンタル不調の学生に向けての適切な対応が必要になってくるように感じました。</li> </ul>
V 入学	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナの影響による、説明会や見学会の開催方法の変更や縮小など、また少子化や看護系大学の増加などの背景によるものと考えられるが、貴校は地域との繋がりや実践力が特色であり強みだと感じています。課題と対策については相違ありません。</li> <li>高校の進路指導では進学率を重視するため大学・短大への進路指導をしているようです。そのため専門学校は学生の獲得に苦慮している現状があります。間口を広げると学力低下が生じることから、なかなか大変な点であると思えます。</li> <li>現在行えることは行っていると思う。大学志向にもなっているため、高卒からの進学者の確保には今後も難渋することとなり、大変さを感じる。様々な年代の入学される方の将来ビジョンなどをいくつか提示しイメージしやすいものを提供し、門を広げていくのも必要に感じる。</li> <li>大学志向、立地、第二看護学科の少なさから定員割れや県外在住者増は難しい問題だと思えます。</li> </ul>
VI 卒業・就業・進学	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題と対策の必要性についての内容に相違はないと感じます。</li> <li>国家試験対策では出来る学生ができない学生を指導するグループ学習が効果的だと思います。国試対策講義のあと理解できない点をグループ学習で補強すると効果があります。出来る学生も教えることでより理解が深まりますし、学生同士で質問しやすい利点があります。問題点は学生同士のまとまりがあるか否かです。協調性のある学年は国試合格率も高い傾向があります。</li> <li>県内の就職は望ましい姿だが、それぞれの生活状況があり難しいと感じる。県内就職を強く打ち出すと、入学者にも影響をきたすのではないかと。第二看護学科は准看学生時代のしがらみも多く、奨学金等のメリットがないと難しいのが現状だと思います。学習についていけない、メンタル不調者は情報共有とフォローの継続しかないと感じます。</li> </ul>
VII 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナの影響による活動の制限や縮小があったようですが、これまで方法だけでなく新たな取り組みが必要だと感じます。</li> <li>社会貢献もコロナ下で十分行えない状態から、評価が悪いものと思われれます。その中でも良く行われているように考えます。</li> <li>コロナが関係し、現状の中で地域に出ていくには、難しいと感じる。</li> <li>コロナ禍で難しいと思いますが、地域ボランティアなど校内でのアナウンスを積極的に行っていた方がいいと思います。災害医療など若い人に興味がありそうなので、ボランティア活動を経験した方の話を聴くこともよいかと思えます。</li> </ul>
VIII 研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>人員不足や新型コロナの影響による業務負担の増加で十分な取り組みができなかったようですが、今後の課題への取り組みにより改善されることを期待します。</li> <li>研究はフィールド調査が主になると思われれますし、研修などのスキルアップもコロナ禍で十分に行われていないものと想像します。評価点が悪い結果も上記の理由からかと思いました。</li> <li>学生に関するすべてを教員で行っていくには、マンパワーが不足していると感じる。入学者の学力状況は、フォローアップにも時間を要し、現状業務でいっぱいのように見える。</li> <li>業務に追われ手が回らない状況と推察します。人員補充と退職・休職しないための環境づくりが急務と思われれます。</li> <li>コロナ禍でいろいろあるかと思えますが、できる範囲で進めていけるといいかと思えます。</li> </ul>

## 2) 授業評価

- ・非常勤講師、専任教員の評価結果については、第一看護学科、第二看護学科で差はないが、臨地実習についての評価結果では第二看護学科の値が低値であり、第一看護学科との差が大きいことが気になります。今後の改善につなげるのであれば、アンケート項目に自由記載ができると良いのではないかと感じます。
- ・講義内容はシラバスや国家試験出題基準により、年々改善されていると思っております。授業評価は学生の生の声が知れるので今後の参考になるかと思えます。
- ・実習にも思うように行けず、実習の場面と重ねながら学ぶことが難しいのではないかと感じる。大学同様のものを求めるということではないが、学内演習用の施設は年々臨場感を持たせたものが出ており、施設整備も学びのためには必要だと思う。
- ・評価アンケートを電子化し、負担の軽減が図れていることは、時代にもあっていて素晴らしいと思えました。電子化の初年度なので、回収率が低くなっていますが、次年度には改善できるだろうと期待しております。第一看護学科の学生さんたちの満足度が高く、先生方の熱心なご指導の賜物と思えました。実習でも支援が得られたという項目が高値なので、相互の関係の良さもわかりました。第二看護学科の学生さんたちの平均値は、少し低めですが、学科の特徴から考えれば妥当な値と思えました。結果から、周囲の人々との相互性のある学習ができていることも確認でき、次年度の支援課題もあがっているのでも良いと思えました。次年度の課題も明確なので、より協力体制を組み改善されることを期待します。
- ・新しいシステムを取り入れ授業の満足度が上がっている点において、コロナ禍で十分とは言えない環境で、十分な評価と思われます。学生が満足し、積極的に取り組める雰囲気づくりをすることでいずれは課題に対し、深く取り組んでいくようになるかと思えます。
- ・コロナの影響もあり、また、財政的・人的な不足を抱えながらも適切な授業をいただいていると思えます。
- ・アンケート回収率の低さが気になりました。コロナ禍による影響で手探りの学習、実習がダイレクトに反映していると感じます。第二看護学科は求める者が高いのかシビアな結果が出ているように思います。総じて満足度は得られているので次年度への課題のクリアを目指しつつ、後進の育成に尽力していただきたいと思えます。また、業務遂行に重点を置き、考えずに行動する新人が多いので「なんでこうなるのか」の疑問を抱けるような気づける目を養えるような学習ができれば理想だと思えます。

## 3) 卒業生の就職先での評価

- ・就職先での評価、アンケートの分析については妥当だと思えます。今後の課題については、Z世代と言われる学生の特徴を捉えた教育、指導、支援が必要になっていくと考えます。また、卒業生への引き続きの支援と医療機関との連携がさらに重要だと感じました。
- ・看護職としての必要な基本姿勢(人間関係やコミュニケーション等)の評価が良いということは本人たちの資質もありますが、学校の教育や勤務先との連携がうまくとれているように思いました。技術的側面(特に患者の自立を支援する援助)が低いが、学校で学んだ本来の考えと勤務先の経営方針とに差がある可能性も考慮する必要があるかもしれないと思えました。病院経営と理想とは異なることがあるからです。ただし、報告書に記載されているように今後の課題として取り組む必要はあるかと思えます。コロナ禍でなかなか開催しにくい状態であるかと思えますが、ホームカミングデイは在校生との交流の場ができて良い試みと思えます。文化祭などの時期に行うなどするとより効果的と思えました。
- ・皆さん頑張っていると思う。年齢もさまざまであり、それぞれの年代の社会的役割も持ち就職となる。看護師の資格を修得する事が目標となってしまう、どのように社会的な役割と看護職をどのように共存させていくかを学生のうちから考えておけるとよいと思う。
- ・就職先での評価が丁寧にされていて素晴らしいと思えました。課題として、患者の個別性をとらえた援助やアセスメント力が挙げられていますが、新人看護師にとっては当然の課題であり、臨床に出て経験を積むことで育成されると思います。また、「組織における役割」「時間管理」その他自己管理能力に関する課題は、貴校だけでなく現在の若い方に共通することなので、先生方のご苦勞に感謝しつつ育成方法の開発に期待します。一方で、「メンバーシップ」「健康管理」「個人情報保護」が良い評価を得ていることは、卒業時に看護を学び続け

る姿勢が習得されているということなので、貴校の教育成果だと思いました。

- ・就職先での評価は、全体的に高い評価を得ているようで素晴らしいと思います。当院に就職されている卒業生もとても頑張っています。その中の意見として「勉強のやり方」がわからないということを何度か聞くことがあります。在学中から自分の勉強のやり方がつかめるようになれるとより良いのかと思います。教育の場では看護の楽しさを学ぶことが必要です。患者に接する態度やことばづかい等の学びは必要だと思います。「よい看護ができるよう努力している」の評価が上がっていることは、貴校での教育の賜物とまいいます。昨今は打たれ弱い新人が多いので、理不尽は世の中にたくさんあること、すぐあきらめないこと、他人のせいにしないこと、プロとしての心構えをもっと知ってほしいと思います。
- ・「卒業生を今後も採用したい」というポイントが高い。学校の評価としてよい評価であると感じた。

#### 4) その他

- ・当院でも貴校の卒業生が就職しており、実習でも関わらせていただいています。今後さらに連携し野田市の地域医療を支える看護師を育てていきたいと思ひいます。
- ・4年制の看護大学の学生の就職活動が早くなっているようです。就職先の情報などは早い時期にアナウンスする必要があるかと思ひいます。
- ・学校の配慮により、その時々必要なご連絡、情報共有は出来ていると思ひう。実習施設と学校がどのように学習環境を作っていくかを今後も今まで同様に行っていけるとよいと思ひう。一方では教員の行う業務内容が多岐にわたっているとも感じ、何か省力化できることがあれば一緒に考えていきたい。
- ・ホームカミングデイは、卒業生にとって心強く離職防止にも効果的だと思ひうので、工夫をしながら継続をお願いしたいと思ひました。コロナ禍での教育が2年以上となり、またカリキュラム改正への対応もあり、ご苦勞が多かったことと思ひいます。そのような中で頑張ってくださいっている学生さんと先生方に感謝と敬意の気持ちでいっぱいです。
- ・今後も心の触れ合う指導をお願いしいます。

#### 5 終わりに

今後も、学校関係者評価会議を継続して開催し、学校外部からの評価をいただく機会を設けながら、学校運営全般に関する質の向上を図ってまいります。